

令和2年度淡路くにうみ夢フォーラム 概要

1. 日 時 令和3年3月13日（土）13:30～16:30
2. 場 所 南あわじ市広田地区公民館
3. 出席者 ビジョン委員20名・一般15名、専門委員4名、来賓3名、
本部・幹事2名、講師薮田氏・アシスタント1名、陪席2名、本庁・事務局6名
計54名

4. 内 容

- (1) 開会あいさつ（山本委員長）
- (2) 来賓あいさつ（永田県議会議員）
- (3) 兵庫県将来構想試案の説明（ビジョン課 木南課長）
- (4) 淡路新地域ビジョン検討状況の報告（交流渦潮課 剣物班長）
- (5) ワークショップ（未来新聞作成）
テーマ：「未来の淡路島を想像しよう！」
講 師：薮田雪子事務所代表 薮田 雪子 氏
アシスタント 薮田 潮美 氏
- (6) グループ発表
完成した未来新聞の写真は最後に添付
- (7) 明日への決意

【出た意見一覧】

- ・淡路島でバリアフリーになっていない道やお店をピックアップして、住みやすくなる具体的な提案を考えていく。
- ・綺麗な淡路島を目指していくために、まずは第一歩として自分の部屋の掃除をする。身の周りから始めて、徐々に通り道や職場などにも広めて綺麗にしていきたい。
- ・30年後にどこにいるかは分からないが、とりあえず明日からも健康に過ごしていく。
- ・自然豊かな環境に配慮した3R（リデュース・リユース・リサイクル）を笑顔とともに実行していく。
- ・オンライン会議について勉強していきたい。
- ・個人的に掲げている4感（感謝・感激・感動・感杯）を目標に、30年後にまた皆様とお会いできるように健康に気をつけて過ごしていきたい。
- ・淡路島に来たのは今回で3回目である。今日からも含めて、今後淡路島にきたら大量に買い物をして淡路島にお金を落とすことを心がけていきたい。（薮田先生）

(8) 講評

①田中亨胤専門委員

明日は淡路島に行くと考えたとわくわくして、昨日は眠れなかった。淡路島に行くとき家族に伝えると、良いねと羨ましがられるくらい、淡路島は魅力的なところである。藪田先生が言われていたのと同様に、私も淡路島にきたらお金を落として帰るようにしている。

本日のワークショップでは、楽しそうな雰囲気が素晴らしかった。皆様が日頃から色々なことを考えられておられるからこそ、多くの発想や着眼点を思い描くことができ、納得のいく新聞を作ることができたのではないかと思います。

30年後の私は100歳を超えているが、マイドローンで淡路島まで飛んでこようと思っている。30年後も玉ねぎやレタス、花、海の幸、ビールはぜひ残しておいていただきたい。家族で子育てをする中で淡路島には素晴らしい思い出があり、ずっと気持ちが淡路島にあるため、京都に住んでいてもこだわって淡路島の玉ねぎを選んでいる。30年後も今日のように淡路島で私と出会い、挨拶していただければ最高に幸せである。

②横山孝雄専門委員

テーブルを見させていただいて、こちらまで大変楽しく心がわくわくするようなワークショップだった。1期から専門委員をさせていただいているが、今日が一番わくわくした。ご案内いただいたチラシでは「未来の淡路島を“想像”しよう！」とあり、私には“創造”の意味合いが抜けているように感じていたが、今日の皆様は「創造」の結果をイメージしてプロセスを話し合っていたらよかったと思う。淡路島が世界一の島に選ばれるまでの経緯など、過去形で話をして新聞の発行日を考えられていたほか、交通網についての議論を飛び越え、空中に飛ぶという意見には大変驚いた。

今日は2つの数字をもってきたので覚えて帰っていただけたら嬉しい。県のビジョンについてご説明いただき、共感・賛同した。ビジョンを更に大きくとらえると、世界的な規模のなかで欧州・米国・中国・日本・豪州などで、グリーンディール政策という動きが出てきている。全てがグリーンになっていく動きのなかで、1kwの電気をつくるたびに100g以上のものはダーク電力、それに対してグリーンやグレーという呼び方の電力もある。石炭はダーク、天然ガスはグレー、水を電気分解した自然のグリーン水素など。その中で、神戸の会社がやろうとしている石炭火力は、1kw1000gであり、世界的に通用しなくなってきている。もうひとつの数字は50g。車を1km動かす時にでる二酸化炭素の量が50gまでがグリーンな車。プリウスはヨーロッパの基準からすると2025年までは環境車(グリーン)、それ以降はグレーになる。グリーン分類(=タクソノミー)というのが世界的なオーダーのなかで動こうとしている。

淡路島は自然エネルギー電化率が30%を超えている。皆様の未来新聞の中には石炭やガスについて書かれていない。県のプランの中では、地域によって明暗が分かれており、神戸は暗である。淡路島には輝かしい未来があると思う。田中先生とも協力してこれからも頑張っていく。

③投石文子専門委員

起草の段階から携わってきたので、20年ほどビジョンとはお付き合いがある。先ほど神戸は暗と言われてドキッとした。37年前に神戸から淡路島にやってきて、当時は橋がなかったので反対も多かった。橋が出来てからは近くなり反対もされなくなったので、30年というのは色々な変化があると思う。ビジョンの改訂の時も関わりがあったが、淡路島は環境立島というキーワードを大切にしてほしい。起草の際に淡路景観園芸学校の先生と相談し、自然環境も素晴らしく社会環境も整っている安全安心な淡路島をつくりたいという意味を込めて、環境立島という言葉を使わせていただいた。ビジョンをこれから作っていくなかで、柱にしてほしいキーワードであると思うので、ぜひ引き継いでいただけたら嬉しい。

私自身は島の研究を長年やってきており、島にはそれぞれ活性化の種になるものがいっぱいある。今日グループを回るなかで、淡路島の人々が淡路島のことを知らないとおっしゃっており、その通りであると思った。そういう意味で、淡路学を更に広めていくことをライフワークにしたいと思っている。

淡路花博の最初の実行委員であり現在の淡路信用金庫をつくった瀧川福市さんは、小さな貯金箱を組合員に配り1日1銭を貯めることで淡路島のお金を守り、今の銀行のもとをつくったとされている。淡路島は人も宝物であり、他の地域にない地域性をもっている。人も大切にしながらこの淡路島を盛り上げていきたい。

④藤原道郎専門委員

今日は大変楽しかった。未来の事柄を現実近づけるということで、交通手段が発達し移動しやすくなったという意見があった。今ある農業や食に関しては今後も大事にしていくという意見も皆様から出てきており、そこは続いていくのではないかと思います。その土地を生かしていくことが淡路らしさである。

里山保全のためにはお金や人員が必要だが、それは課題ではなく、そこから活性化に繋がるなど、空き家や空き地であることが実は重要である。防災に関しても、適度な土地や人、自然があることで復興が進んでいく。今あるものをマイナスではなくプラスに考えていけるだけの資源が淡路島にはある。マイナスを逆にプラスに変えるという案が、今日の未来新聞を作るなかで具体化できたのではないかと思います。

自然環境生態系を基盤として生活を続けることで発展し、淡路島の自然を魅力に感じて島外からも企業がやってくる。バランスのとれた島の発展を具体的に動かしていけるのではないかと思います。

⑤永田秀一県議会議員

今日は本当に夢のある提案を沢山出していただいた。行政や政治に関わる者はどうしても現実的な考えになり、ついつい悪い方へと考えてしまう。少子高齢化、人口減少についてなど。皆様は夢をもって色々なことを語ってくれており、嬉しくなった。夢のある話を聞くことによって、我々政治に関わる者もそれを活かしていくようにしたい。私からは、今日の発表をタイムカプセルに入れ、埋めておくことを提案したい。2050年に掘り起こして実際にはどのような淡路島になっているのかを語りあってもらえたら嬉しく思う。それが今後の淡路の発展に繋がっていく。

何をするにしても人の繋がりやコミュニケーションが大事である。一人ではなにもできないが、例えば、阪神淡路大震災の時に旧北淡町では亡くなった方が少なかった。これは皆様の日頃の付き合いがあり、助け合えたからこそである。そうやって地域社会ができあがっていく。人の繋がりを大事にして、これからもぜひ頑張っていたきたい。

⑥浜田知昭県議会議員

去年から続くコロナ禍において、不要不急の外出自粛の生活の中で皆様が一番感じているのは、不要不急の大切さではないかと思う。例えば、文化やスポーツ、会話、食事のほかにもうひとつ必要なのは夢である。本日の夢フォーラムの中で皆様の想いを出し合っていただけなのは本当に有難いことである。皆様の多様性のある夢の実現に向けて頑張っていきたい。30年先は多様性のある淡路島が本当に実現していると私は確信している。ぜひあと30年頑張っていきたい。

⑦原テツアキ県議会議員

この30年というのは、日本にすれば戦後30年で大きく飛躍している。現在アメリカを追い越そうとしている中国も、30年間で大きく成長している。私がサラリーマンをしていた時、会社では50歳になると社長も社員も同じ研修を受けた。「これからの30年でどのような生き方をするのか」をテーマに、自分がサラリーマンになってからの人生の棚卸しと、これからの人生について考える。サラリーマンであれば、普通は65歳まで働き、時々ゴルフをして、70歳で病気になり80歳で死ぬような人生を送るだろう。これではいけないと思い、55歳で淡路島に帰ってきた。自分の将来を考えることは大事である。

(6) 閉会あいさつ (亀井県民局長)

D班

2051 3.20 育の新聞

淡路花十草苑 50周年
花のどり大フェア開催
2000年に開催された50周年から50周年を記念して花のどり大フェアの開催が云々
淡路島には、花のどりの花が立ち咲きだした。

野茶が空を飛ぶ
人は家に居て、悪人50人...
分1をばらばらと耕している
野茶の管理は左で、右は右の
収穫は野茶は1000本...
野茶市の、その日1日、野茶の収穫が
新報でおかしい!

30年後の淡路島
三市水いよいよ完成して子供達も
魅力を増進して子供達も
真意

若者であふれる島
帰って来よう!!
今春の卒業した若者次々と
島へ帰る。島で農業法人への
就職が、一番人気らしい。多くの若者に育て
られた20代の野茶が食はれる日だ。
栄えいめでいっしょ!!

【大賞獲得】
農水産祭で淡路市の小田原音の「花のどり」部門
で最優秀賞を獲得しました。真意さんは見聞の
関係で3つの野に淡路島に特産品として、島のまじりに心を
奪われた花に、淡路島の紅まじり、薄く咲きだした。
この花も若い方、花のどりを育てたいと語っています。

育の高校開校 25周年
一生徒数も1000人超へ
育の高校は通信制の高校。国、教員
以外の活動科は、淡路島の企業や
70-100の生徒が、淡路島の企業
展開している。企業家精神を養う、
毛外-2000名、OGは50名を超え
2001年、F.O.とF.O.とF.O.とF.O.と
へ新報を運ぶ、F.O.とF.O.とF.O.とF.O.と

C班

2050年 3A130

みらい新聞

空中移動で淡路帯解消
淡路島と本洲をつなぐ
海空インテリが完成
橋の淡路帯解消
淡路広域連合
三州連合

空交通の
新定乗務員
乗務員

淡路の教育が
真意

30年後
三市水
魅力が
真意

求人情報
★ドローン実習★
時給 3000円
地域 全島

コトダス @ 場所: ETC 商店街 500~800 空店舗
日時: 2050年 4月1日

淡路島が公共
交通でも「島」
くなくなった。
半世紀以上前に開通
した明石海峡大橋に
高速度口がウエイが開
通した。淡路島は完
全な運動圏になった。
淡路島は完全な車
社会で、高齢者や
移住者は不便なこ
ろがある。これを
どこに勤めようと、電
車で移動できる。コト
ダスの開通で、思い
の輸送力もあり、車
も減り、淡路帯解
消できる。この先計画
の海空インテリが実現
すれば、淡路は「住むと
移動」の理想郷になる
だろう。

2050.3.13

E班

島と守る Newspaper

2051年2月15日

復興から10年

阪神淡路大震災や東日本大震災、南海よつ地震を経て、世界一災害に強い島へ復興!!

1ヶ月ぶりの恵み雨
水の自給率100%を確保

宇宙へ
島の恵み宇宙食
ミックス

淡路島のたんじり唄
オリエンタルの開会式へ!!

ロボット
たんじり

島と守る
島実現
地と
まなま

F班

淡路島と守る!

2051年1月3日

1. 交通

2. 防災

3. 長寿の島

4. 空土地
空土室
建設会社

5. 行政とインフラ

増
軒家=

長寿の楽しみ
家族、友達、街

無料化
活かした交通網の活用

紀淡
海味
トに済化

一軒家と活用

防災のネットワーク

一市合併から20年

誰かが住みやが
島へ

募集
島びりスポット一求む
(企業個人)